研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		17-326	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Alcohol Consumption in Diabetic Patients with Nonalcoholic Fatty Liver Disease.
非アルコール性脂肪性肝疾患を伴う糖尿病患者におけるアルコール消費

執筆者

Patel PJ, Smith D, Connor JP, Horsfall LU, Hayward KL, Hossain F, Williams S, Johnson T, Stuart KA, Brown NN, Saad N, Clouston AD, Irvine KM, Russell AW, Valery PC, Powell EE.

掲載誌

Can J Gastroenterol Hepatol. 2017;2017:7927685. doi: 10.1155/2017/7927685.

キーワード	PMID:
アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）， 糖尿病、 飲酒量	29226116

要　旨

目的:NAFLD を合併する 2 型糖尿病患者で生涯のアルコール消費量と肝疾患の間の関係を調べること。

方法：臨床的に肝疾患の危険にさらされていて NAFLD を有する 151 例の患者を評価する断面調査。

NAFLD の線維形成の重症度はエラストグラフィーによって分類された;

肝臓の硬度の測定で 8.2kPa 以上を有意な線維形成と定義した。

生涯の飲酒履歴より、患者を非飲酒家、少量飲用者（常に 20g/日以下）、中等量飲酒家（どんな期間でも 20g/日以上であれば）に分類した。

結果：生涯の非飲酒家群と比較して、少量と中等量飲酒家群では、より男性が多く（p = 0.008）、白人が多く（p = 0.007）、そして、喫煙歴（p = 0.000）、閉塞性睡眠時無呼吸（p = 0.003）と自己申告性鬱病（p = 0.003）があることが特徴的であった。中等量飲酒家は、糖尿病の制御のために 3 つ以上の血糖降下薬（p = 0.041 と血清中性脂肪濃度を低下させるために fibrate（p = 0.044）を必要とした。

肝臓の高度測定で 8.2kPa 以上（年齢、性と BMI ボディーマスインデックスのために調整された）を持つ確率は生涯非飲酒家と比較して、少量飲用者は、1.79 倍の（95%CI：0.67-4.82;p = 0.247）、そして、中等量飲酒家は 0.91 倍の（95%CI：0.27-3.10;p = 0.881）をもつ。

結論：NAFLD をもつ糖尿病患者において、少量または中等量のアルコール消費は、肝線維症と統計的には有意な関係が認められなかった。生涯のアルコール摂取の線維形成進行と糖尿病性共存症への影響は、特に閉塞性睡眠時無呼吸と高トリグリセリド血症の関係で、更なる調査を必要とする。